ことばについて考える

２０１４年６月３日

まつお　しん

- ことばはコミュニケーションの道具であるとすれば、

- 世界中が一つの言語、例えば、英語や日本語だけを使用するようになった方が効率的でいいことでしょうか？

「母語」とは･･･

＊国語辞典（大辞林 第二版 （三省堂）引用 ）

→ある人が幼児期に周囲の大人たち（特に母親）が話すのを聞いて最初に自然に身につけた言語。

＊國語辭典・重編國語辭典修訂本
（教育部國語辭典　引用）

→俗稱鄉土語言。

＊English Dictionary
(OXFORD Advanced Learner’s DICTIONARY　引用)

→the language that you first learn to speak when you are a child.

母語の概念の捉え方

「母語」とは

1. 生まれてはじめて出会い、無自覚にできあがるもの、一度身につけると他のことばととりかえることができないもの。（田中克彦1981）

母語の特徴

「文法も辞書も用いずに、また、教室などという外圧装置を用いることなく、ひとりで身についたという点」

本当にそうなのでしょうか？？
では、あなたの母語は何ですか？

例をみながら、もう一度考えてみましょう！

例①：

　日本で生まれ、両親共に日本人の家庭で育つ。日常生活においては日本語を使用。過去、学生時代に英語と中国語を勉強した経験はある。

例②：

　アメリカ在住の台湾人と韓国人の両親をもつ家庭に生まれ育つ。家庭内では、韓国語と中国語を使用するが、家庭外では英語を使用。

韓国語と中国語は両親との会話でしか使いません。

例③：

　台湾で生まれ育ち、両親はともに客家系台湾人。家庭内では主に中国語を用いる。幼児期には両親や祖父母と客家語を使用していたが、幼稚園入園とともに、中国語使用の割合が強くなり、今は客家語は使えない状態。現在日本に留学中で、日常生活においては日本語を使用。

あなたは東京女子大学を卒業したあと、オーストラリアの大学院に留学しました。大学院で同じく日本出身の男性と恋人になり、結婚することになりました。二人ともオーストラリアが気に入り、オーストラリアの永住権を得て、オーストラリアで職を得ました。結婚したあなたたちに子どもが一人できました。

子どもはオーストラリアで教育を受け、オーストラリアで出会った人と結婚し、孫ができます。孫は二人で年齢は、12歳と10歳です。

あなたは日本語にどの程度、こだわって生きていきますか？

子どもや孫に日本語を継承したいですか？継承したいとすればどうしてですか？　継承することは簡単なことでしょうか。**どのような条件が必要になってくるでしょうか。**

あなたの家族（子どもの配偶者の家族を含む）の言語コミュニケーションはどのようになっているか、あなたを中心にして図を描いてください。

Mother tongue(s)

Skutnabb-Kangas and Robert(1989)の4つの定義
Definitions of Mother Tongue(s)

- **起源：いちばん最初に習得した言語**
  Origin: language(s) one learned first

- **能力：もっとも熟知している言語**
  Competence: language(s) one knows best

- **機能：もっとも頻繁に使う言語**
  Function: language(s) one use most

- **アイデンティティ：Identification**
  a)自分が母語だと見なしている言語: the language(s) one identifies with
  b)他人によって母語だと見なされている言語: the language(s) one is identified as a native speaker of by others.

Skutnabb-Kangas, Tove and Robert Phillipson.(1989).“’Mother Tongue’ the Theoretical and Sociopolitical Construction of a Concept” : In Ammon,U(ed). *Status and function of languages and language varieties.* Berlin, pp.450-477.

- アイヌ語も琉球諸語も日本の侵略によって危機的状態になった言語です。

- そうした言語が消滅していくことを「しょうがないこと」としていいのでしょうか。

出自言語の維持の諸条件

- 家庭での使用（出自言語を継承するためには家庭での使用が絶対条件）
- 異民族婚（2世、3世が日系人以外と結婚すれば言語シフトは促進される）
- 人口割合（コミュニティの人口割合が20%あれば世代を超えてコミュニティで継承される可能性がある）
- 言語政策（教授言語として認められるか、継承語教育としての扱いはあるか、公用語として役所、裁判、医療現場などでの使用が保障されているか）
- メディア（当該言語のメディアが十分に存在するか）
- 言語の地位（世界・周辺地域の中での当該言語の地位の高さ）
- 母国への行き来、新しい移民の存在
- 共通の宗教を持ち定期的な集まり（礼拝）などがあるか

- このPPTは、松尾が台湾の東海大學大学院在職中に指導した彭康嘉さんと飯田美郷さんが作成したPPTの一部を使用させていただきました。